

---

平成29年度  
ボランティア活動事例集

---

北のまちから  
あったかハート



ほっとちゃん

社会福祉法人 北海道社会福祉協議会  
北海道ボランティア・市民活動センター

---

# 目 次

---

I	はじめに	..... P	2
II	ボランティア実践団体の活動事例		
	(1) NPO法人ワニワニクラブの仲間達の会（室蘭市）	..... P	4
	(2) かあちゃん食堂「たまりば」（江差町）	..... P	6
	(3) 南富良野町赤十字奉仕団	..... P	8
	(4) 羽幌みんなでつくる自然空間協議会（羽幌町）	..... P	10
	(5) お話し相手 笑くぼの会（中標津町）	..... P	12
III	市町村ボランティアセンターの活動事例		
	(1) 土別市ボランティアセンター	..... P	15
	(2) 網走市ボランティアセンター	..... P	20
	(3) 赤平市ボランティアセンター	..... P	24
IV	参考資料		
	～「平成29年度市町村ボランティアセンター統計資料」（平成30年2月発行）より～	..... P	27

---

## はじめに

---

近年、少子高齢化による家族機能の変化や地域のつながりの希薄化等により、さまざまな生活課題が生じてきています。平成27年4月には、介護保険法の改正に伴って介護予防・日常生活支援総合事業が開始され、誰もが住み慣れた地域で安心して生活するため、公的なサービスの充実はもとより、生活支援の担い手としてボランティアの活躍が期待されています。

本事例集は、過去3年の北海道新聞社会福祉振興基金のボランティア奨励賞受賞団体の中からその活動について紹介しています。また、平成29年度本会主催研修事業における実践報告より、市町村ボランティアセンターの活動についても紹介しています。

本事例集をご活用いただき、各市町村ボランティアセンターの事業展開や住民活動の発展の一助となれば幸いです。

最後に、本事例集を作成するにあたり執筆にご協力いただいた皆様に、厚くお礼を申し上げます。

平成30年3月

社会福祉法人 北海道社会福祉協議会  
会長 長瀬 清  
北海道ボランティア・市民活動センター  
所長 小原 規史

ボランティア実践団体の  
活動事例

# (1) NPO法人ワニワニクラブの仲間達の会（室蘭市）

（平成 29 年度北海道新聞社会福祉振興基金ボランティア奨励賞受賞団体）

## 1. 活動概況

代表者	吉田 淑恵
活動のきっかけ等	代表者が、平成9年に自宅と隣接する遊び場を親子で集うサークルとして開放した。その後、当該地区活性化の話し合いにより、集合商店街の中に子育て室を設置することが決定し、近くで活動していた代表者に運営の依頼があった。平成13年には、週5日、毎日約30組親子での利用があり、活動を支えるボランティアは、人脈や友人関係で広がって約40名となり、現在も賛助会員・活動会員として支えている。
活動分野	福祉 ・ 保健 ・ 環境 ・ スポーツ ・ 文化 ・ 観光 ・ 国際交流 ・ 防災
対象者	高齢者 ・ 障がい者 ・ 児童 ・ 地域住民

## 2. 具体的な活動内容

- ・ 子育て支援室ワニワニクラブの運営  
（季節の行事の開催、絵本の貸出及び読み聞かせ、社会性を養う場の提供）
- ・ 地域住民を対象とした、隣接する市民会館における音楽会の開催
- ・ 中学生や高校生、大学生と各種団体の施設体験及び見学等の受入れ
- ・ さまざまな団体やOB会員との交流を目的とした、フリーマーケットの開催

## 3. 市町村ボランティアセンターとの連携の実際、今後どのように連携していきたいか

ボランティア希望者に対する研修の場として協力している。  
また、活動場所に厨房やトイレ、遊具等を完備しており、災害発生時における一時的な避難者の受け入れ場所として登録している。

#### 4. 今後の課題や展望

近年、就園年齢の低下や保育所の充実により、子育てをしながら働き続ける保護者が増えており、少子化も重なったことで、利用会員が急激に減っている。今後は、要望の多い就園前の乳幼児（0～3歳児）を対象とした専用の遊び場を作ったり、地域住民の集いの場となるよう関係者（民生委員や福祉委員、PTA等）に働きかけ、商店街の活性化につながる新たな活動も必要だと考えている。

ただし、ワニワニクラブについては、ボランティア活動者が活動当初からほぼ同じメンバーであるため、活動者自身の高齢化や親の介護を考えると、ワニワニクラブOB等の若い力を得て、活動を継続するための組織づくりを行うことが急務だと考えている。

利用しやすい拠点があることは、大きな力だと思っている。

#### 5. 活動の様子



↑写真

風船の魔法使い  
バルーンアート  
ステージショー  
～トゲラーがやってきた～

7/23<sup>±</sup> 2016

場 所：室蘭市市民会館 二階会議室（室蘭市輪西町 2-5-1）  
時 間：13：00～14：00  
参加費：おひとりさま 300 円（6 か月未満無料）

テレビや新聞などのメディアでご覧になったことがある方でもないでしょうか？「バルーンアートで世界中を笑顔に！」をテーマに活動する人気バルーンアーティスト・風船の魔法使いエリサさんが室蘭にやってきました！大人も子どもも目が釘づけになる風船の魔法の世界を、どうぞお楽しみください！

ちびっこには  
バルーンアートの  
おみやげがあるよ。

助成に感謝します  
赤い羽根共同募金

【お問い合わせ】NPO法人  
ワニワニクラブの仲間達の会 会員募集中！ <http://waniwani.blog.jp/>  
室蘭市輪西町2-5-1（ぶらっとてついち内） 0143-41-5811 / 090-5223-3969

↑資料

写真：「お餅つきの日」に、つきたてのお餅に餡を入れて丸めて食べる親子の様子。

子どもたちも小さな身体で杵を持って餅つきを行った。

資料：「バルーンアートステージショー」の周知用チラシ。

札幌からバルーンアーティストを招き、ステージショーを開催した。

## (2) かあちゃん食堂「たまりば」(江差町)

(平成 29 年度北海道新聞社会福祉振興基金ボランティア奨励賞受賞団体)

### 1. 活動概況

代表者	小梅 洋子
活動のきっかけ等	「高齢者が気軽に立ち寄り、おしゃべりをしながら交流したり、休むことのできる場所があったら。」という代表者の思いから、平成17年9月に開設した。 会員は8名おり、毎回5名程度で活動している。
活動分野	福祉・保健・環境・スポーツ・文化・観光・国際交流・防災
対象者	高齢者・障がい者・児童・地域住民

### 2. 具体的な活動内容

代表者の旧店舗(小梅酒店)を改装し、コミュニティレストランとして、毎週水曜日(年末年始等は除く)の午前11時30分から、2時間程度開設している。その時々集められる食材(買ったり、貰う等)をもとに献立を考え、1食300円の定食として提供している。また、行事や注文にあわせ、海苔巻きやかたこもち(べこもち)等の製造や販売も行っている。

地域住民(江差町内すべて)を対象に活動を続けており、高齢者の見守りや情報交換の場として機能している。また、世代の違いや障がいの有無を問わず、食事に来た人同士やスタッフとの交流がなされており、困りごとの相談場所としても機能している。

その他、リングプルを収集し車椅子と交換したり、町役場や町社会福祉協議会、各町内会が会議等で利用する場合の会場提供という側面も持っている。

### 3. 市町村ボランティアセンターとの連携の実際、今後どのように連携していきたいか

現在、日々の活動において、町ボランティアセンターと十分に連携しているとはいえない。

これからの活動を考えると、ボランティア活動者の確保や育成が必要となることから、活動展開にあたってボランティアセンターと連携をとる必要がある。

#### 4. 今後の課題や展望

現在行っている活動が江差町に根付き、多くの拠点が出来ることが望むが、そのためにも担い手の確保や育成は大きな課題である。

#### 5. 活動の様子



↑写真1



↑写真2

写真1：活動者が調理を行う様子。

写真2：美味しい料理を囲んで食事する利用者の様子。



### (3) 南富良野町赤十字奉仕団

(平成 29 年度北海道新聞社会福祉振興基金ボランティア奨励賞受賞団体)

#### 1. 活動概況

代表者	佐藤 圭子
活動のきっかけ等	結成は昭和 59 年。南富良野町のボランティア組織第 1 号の団体で、町内の福祉施設における活動や町の行事への協力活動等を展開している。赤十字の博愛人道の精神に基づき、すべての人々の幸せを願い、明るく住みよい社会を築き上げていくため、身近な奉仕活動などに従事することを目的としており、上川管内や町内における研修会に参加するなど、活動に必要な知識や技術の習得も継続的に行っている。団員は 53 名。
活動分野	福祉 ・ 保健 ・ 環境 ・ スポーツ ・ 文化 ・ 観光 ・ 国際交流 ・ 防災
対象者	高齢者 ・ 障がい者 ・ 児童 ・ 地域住民

#### 2. 具体的な活動内容

福祉施設に清拭布を寄贈したり、町敬老会や町社会福祉協議会事業への協力等を行いながら、東日本大震災や熊本地震、九州北部豪雨発生後には、「被災者のために何かできることはないか」との思いから街頭募金活動を実施した。平成 28 年の台風災害では、南富良野町でも多くの被害が出たが、被災した団員もいる中で、被災者への炊き出し活動として、手作りのおにぎりやおこわを直接届けに行くなど精力的に活動し、疲れや不安を抱えた住民に元気と笑顔を届けた。また、復旧支援に来たボランティアに対し、身体負担の大きい活動への感謝の気持ちをこめて炊き出し活動を行い、ボランティア活動者が疲れた身体を癒すことができた。

#### 3. 市町村ボランティアセンターとの連携の実際、今後どのように連携していきたいか

町ボランティアセンター企画事業への協力をしており、重要な役割を担っている。また、平成 28 年の台風災害の際には、町災害ボランティアセンターが一般住民宅へのボランティア派遣を中心に行っていたところだが、当団員は町内医療機関や高齢者生活福祉センターでの泥出し作業を行い、活動場所を分担した。同じく町災害ボランティアセンターでのボランティア活動者に対する炊

き出し活動では、日程調整や事前打合せをする中で食事提供に係る調整を行った。

例年実施している事業への協力については、今後も継続しながら、子どもから高齢者まで地域住民が楽しむことができるよう、情報共有も含めて行っていきたい。当団体事務局を町社会福祉協議会が担っているため、町ボランティアセンターとの連携については問題ない。

#### 4. 今後の課題や展望

町や福祉関係団体による行事への協力、清拭布作り等の長年継続している身近な奉仕活動を今後も継続していく。また、研修会参加により団員のスキルアップを図り、平時から災害時等における奉仕活動が行えるように準備する。団員の高齢化や団員数の減少が課題であるが、課題解決に向けた活動も含めて検討していきたい。

#### 5. 活動の様子

写真1：活動者の集合写真。

写真2：笑顔で炊き出し活動を行う活動者の様子。



↑写真1



↑写真2

## (4) 羽幌みんなで作る自然空間協議会（羽幌町）

（平成28年度北海道新聞社会福祉振興基金ボランティア奨励賞受賞団体）

### 1. 活動概況

代表者	金田 幸太郎
活動のきっかけ等	<p>平成13年、北海道海鳥センター友の会が中心となり「いきものとともに暮らす地域づくり」をテーマとした勉強会を開いた。地域における身近な環境問題を解決するには、一人ひとりの日々の実践が重要であることを踏まえ、環境を復元・創造していくプロセスについて学びながら、行政のみに頼るのではなく、地域住民自らがビオトープ（生物が恒常的に生活できる空間）公園をつくりたいと考え、平成16年1月に当団体を発足した。以降、旧羽幌川を埋め立てた町有地（7ヘクタール）を使用し、ビオトープ公園を造成している。</p> <p>メンバーは、勉強会の参加者を中心とし高校生から高齢者まで幅広い年齢層で構成されており、団体として高等学校や漁業協同組合、青年会議所なども加わった。</p> <p>現在活動日を月2回設けているが、中にはほぼ毎日公園内の維持活動を行っているメンバーもいる。年間の延べ活動人数は500人を越えており、維持活動に加え、高等学校や漁業協同組合女性部、ロータリークラブ、転入者や一般町民などによる植樹会を年4回程度実施しているほか、転入者や留萌管内住民を対象にした観察会を春と秋の2回実施している。</p>
活動分野	福祉・保健・ <b>環境</b> ・スポーツ・文化・観光・国際交流・防災
対象者	<b>高齢者</b> ・ <b>障がい者</b> ・ <b>児童</b> ・ <b>地域住民</b>

### 2. 具体的な活動内容

平成29年度は、日々の維持活動のほか、町民にビオトープ公園の存在と意義をより知っていたくための活動を平成28年度に引き続き実施したため、報告する。

平成29年4月には、新しく町民となった転入者向けに、ビオトープ公園と羽幌町内の観光名所等に関する説明会を行った。5月には、転入者や家族の節目を迎える方々の記念植樹とビオトープ公園の観察会を行った。これを機に新たに会員となり、月2回の活動に参加する転入者も出てきている。また、公民館と共同開催による児童対象の観察会や植樹活動、「緑の羽根」募金活動、子育てサークル「ママなび」のお母さんと子どもたちによる植樹会も行った。毎年行っている羽幌高等学校の生徒と北るもい漁業協同組合女性部との植樹活動や、羽幌ロータリークラブの桜の木の植樹活動も実施するなど、精力的に活動している。

### 3. 市町村ボランティアセンターとの連携の実際、今後どのように連携していきたいか

当団体に新たに会員が入ってくることもあるが、メンバーの高齢化が進んでいる。ビオトープ公園の完成までにはまだ年数を要するため、活動を引き継ぎながら進めていく必要がある。そのため、町ボランティアセンターに登録している他団体に活動日や植樹会について知らせ、興味を持ってくださった方と一緒に活動を進めている。

今後も、当団体の活動の主旨などを知っていただきながら、他団体の仲間と一緒に活動を展開していきたい。

### 4. 今後の課題や展望

ビオトープ公園の維持・管理に係る経費は、基本的に会費と寄付金で工面しており、財源基盤の安定が課題である。また、先述のとおり、メンバーの高齢化が進んでおり、新入会員の募集を行ったり賛同者を増やすことが急務である。

平成30年度からは、羽幌高等学校と10年計画で活動を行うこととなる。これまで行ってきた植樹活動に加え、ビオトープ公園に生息する生きものや植物に関する調査を共同で行うほか、下草刈りも継続的に行う予定である。

さらに今後は、ビオトープ公園を環境教育の場として活用していきたいと考えている。

### 5. 活動の様子

資料：羽幌みんなで作る自然空間協議会だより  
(2017年7月号より抜粋)。

当団体の活動を伝える毎月発行の通信。

本号では、羽幌高等学校・北るもい漁業協同組合女性部との植樹会の様子を掲載している。



↑資料

## (5) お話し相手 笑くぼの会 (中標津町)

(平成27年度北海道新聞社会福祉振興基金ボランティア奨励賞受賞団体)

### 1. 活動概況

代表者	田久保 稔
活動のきっかけ等	平成21年より町社会福祉協議会の支援を受け、学習会の開催を経て、平成22年1月26日に正式に活動を開始した。現在13名の会員で活動しており、「お話し相手ボランティア利用者」宅に月1回訪問している。
活動分野	福祉・保健・環境・スポーツ・文化・観光・国際交流・防災
対象者	高齢者・障がい者・児童・地域住民

### 2. 具体的な活動内容

外出の機会が少ない方や二世帯住宅に住んでいるが生活実態は独居である方、脳梗塞等により外出が困難な方、町外出身で知人がいない方、他者と話す機会を増やしてほしいという家族の希望がある方など、さまざまな高齢者宅を2名1チームで訪問し、話し相手をしている。

[平成28年度実績]

ボランティア利用者数：延べ54名、ボランティア活動者数：延べ109名

### 3. 市町村ボランティアセンターとの連携の実際、今後どのように連携していきたいか

町ボランティアセンターは、当団体のボランティア利用希望者の紹介を受ける窓口になっている。ボランティア活動希望者を募集する際には、必要な研修開催などにあたって、町ボランティアセンターの支援を受けている。また、定例会などでは、町総合福祉センター内のボランティアルームを使用している。

今後も研修や講座を継続的に開催して会員の意識や知識・技術の向上をはかるとともに、町社会福祉協議会や町地域包括支援センターと綿密な連携を図っていきたい。

#### 4. 今後の課題や展望

ボランティア活動者の高齢化は避けられず、活動継続のためには、新たな会員を増やさなければならぬと考えている。また、要望として挙がっている遠隔地への訪問や複数回訪問に応えることができていない。

主に外出することが難しい方の自宅を訪問し話し相手をするすることで、寂しさや不安等を少しでもやわらげ、住み慣れた地域や自宅で生活する手助けができるよう、今後も活動していきたい。

#### 5. 活動の様子



↑ 写真

**お話し相手 笑くぼの会とは・・・**

月に一度、町内にお住いの方で外出することが難しい人、人の集まりが苦手という人のお宅を訪問し、お話を聴き会話を楽しんでもらうことを目的に活動しているボランティア団体です。

誰かに話したいという心の声にほんの少しの時間を、耳を傾けていくボランティア活動を一緒にやってみませんか？

例会では、報告会・情報交換を行っています。

例会は毎月1回！第4火曜日です。

二人一組で訪問します。

豊富な経験談を聞ける！うらやめるお話がたくさん！自分の人生経験にもなります。

ボランティアも笑顔元気・満足感をもっています！

**一緒に活動してみませんか？**

**参加者を募集**しています！

お申し込み先 お問合せ先  
お話し相手笑くぼの会  
(代 表) 田久保 (0153) 72-0541

↑ 資料

資料：活動者を募集する周知用チラシ。  
写真：日々の実践を演劇にて生き生きと伝える活動者の様子。

市町村ボランティアセンターの  
活動事例

## (1) 士別市ボランティアセンター

(設置主体：社会福祉法人 士別市社会福祉協議会)

### 1. 活動概況

住 所	士別市東5条3丁目1-1 サポートセンターしべつ 士別市社会福祉協議会内
電話番号	0165-22-3012
FAX番号	0165-22-3019
E-mail	shibetsu-shakyo3@bz04.plala.or.jp
設置時期	平成8年より現在の名称で活動している。 前身は、士別市社会奉仕活動センター（昭和56年～平成8年）。
職員体制	2名（地域福祉係）
運営委員	平成30年2月現在、15名の委員がいる（うち委員長1名、副委員長2名）。 各団体から選出されるいわゆる「当て職」ではなく、「ボランティアがしたい！」という意欲を持った方々で構成され、年齢層は30代～70代と幅広く、職種も教員や会社員、高齢者・障がい者施設職員、ボランティアサークルの会長など、さまざまである。 以下の2つの係がある。 A 福祉教育係 児童・生徒関連のボランティアや教員向け研修会などを企画・実施する際、中心となって主体的に活動している。 B 広報係 「社協だより」内の当センターの活動を紹介する記事を執筆したり、「ボランティアセンターだより」（全戸配布）を作成している。

### 2. 具体的な活動内容

- ・ 運営委員会の開催（当センター事業の企画運営のため、毎月開催している）
- ・ ふれあい広場の開催（7月第1週目の土曜日・日曜日、2日間）
- ・ 各種研修会の開催（市民ボランティアスクール、住民福祉活動を進めるつどい、福祉教育懇談会、ボランティア指定校担当者会議等）
- ・ 土曜ボランティア学習塾「さぼてん」の開催（対象は中学生と高校生）
- ・ 各種福祉関係事業やボランティアへの協力



### 3. ボランティア実践団体との連携の実際、今後どのように連携していきたいか

福祉施設や各種ボランティア実践団体、障がい者団体、自治（町内）会、学校、民生委員児童委員、児童館、トヨタボランティアセンター等、市内外含めて多数の団体や個人登録ボランティアと連携している。当センター運営委員がさまざまな団体に所属していることも、連携しやすい理由のひとつである。

連携の実際について、以下に3つ記載する。

#### A ふれあい広場

子どもから高齢者まで、障がいの有無に関わらずみんなでふれあえる場を作り、ふれあいの心（ノーマライゼーション）を広めることを目的に開催している。上記の団体等で構成される約200名の実行委員とともに、当日の運営はもちろん、企画段階から準備を進めている。ステージ企画や出店、ボランティア・アダプテッド（障がい者）スポーツ体験コーナー、ガイドヘルプなど、各団体（実行委員）の得意分野を生かせるコーナーを担当し、事業を盛り上げている。2日間の開催が可能であるのも、実行委員をはじめとしたボランティア一人ひとりが主体的に参加していることが大きい。

#### B 除雪ボランティア

市内企業等に協力していただき、障がいや高齢のため自力で除雪が難しい家庭の除排雪を実施している。現在、建設関係等の市内9企業が登録しており、件数は多くないが、企業の特徴を生かしたボランティア活動を展開している。

#### C トヨタボランティアセンターとの連携

士別市にあるトヨタ士別試験場内にトヨタボランティアセンターがあり、当センター関連でも、ふれあい広場での車輛運搬や除雪ボランティア、地域でのボランティア活動等に積極的に参加していただいている。現在、当センター運営委員にもトヨタの社員の方がいる。トヨタボランティアセンターの創設前から、個人ボランティアとして活動していたトヨタの社員の方がおり、こういった個人ボランティアがキーパーソンとなっていることが大きい。

### 4. 今後の課題や展望

- ・ 課題：ボランティアの高齢化、減少。
- ・ 展望：各団体との連携をさらに深め、繋がりを広げていくこと、子どもたちへの福祉教育を推進し、将来を担う若い世代を育成すること。

## 5. 活動の様子



↑写真1



↑写真2

写真1：子どもから高齢者まで幅広く参加した、「ふれあい広場」における企画の様子。

写真2：市内企業等が協力した除雪ボランティアの様子。

資料：士別市ボランティアセンターだより「ふれあい」（第56号、平成30年2月号発行）。

本号では、4市（士別市と名寄市、網走市、紋別市）のボランティアセンター合同の「ボランティア研修交流会」と土曜ボランティア学習塾「さぼてん」の様子を報告している。

（P18参照）

# 士別市ボランティアセンターだより ふれあい

● 発行 ●

士別市ボランティアセンター  
士別市東5条3丁目  
サポートセンターしべつ  
士別市社会福祉協議会内  
TEL 22-3012  
FAX 22-3019

## 「4市ボランティア研修交流会」

11月25日～26日の2日間にわたり、士別市・名寄市・網走市・紋別市ボランティアセンター合同の、「ボランティア研修交流会」を士別市で開催しました。

1日目は、2016年10月にオープンした士別市いきいき健康センターの施設見学と、「ふまねっと」、「サフォークジム」、「認知症予防教室」の3つのプログラムを体験しました。

菅井館長からセンターの概要について説明していただき、当初は高齢者の利用を中心に考えていたが、今では小さい子どもを連れてお母さんなど幅広い年代の利用者がいる等のお話がありました。

「ふまねっと」は、大きな網でできたマス目を歩いていく運動で、ふまねっとサポーターの皆さんの指導の下リズムに合わせて色々なステップに挑戦しました。

「サフォークジム」では、足・指を使ってのジャンケンやタオル引き、足でとなりの人にボールを渡すリレーなどを体験し、見ていると簡単にできそうでも、実際にやってみるとかなりハードでした。

「認知症予防教室」では、認知症についての講話と、認知症予防となる手の運動や映像での間違いさがしなどを楽しみながら体験しました。

夜は、羊飼いの家でジンギスカンを囲んでの交流会。5人1組でチームを組み、「お絵かきですよ」をやりましたが、これまた大盛り上がりでした。



2日目は、情報交換会を行いました。まず、各市のボランティアセンターの活動を紹介、各市で今年度新たに取り組んでいる事業もあり、興味深く参考になる内容がたくさんありました。

そして、本研修会は今年度で4年目を迎え、各4市を1巡りしたこととなるため、「こんなことやってみたい！提案会！」と題し、グループに分かれて、次年度からどんなことをやっていきたいか話し合いをし、「『ポッチャ』などのアダプテッド（障がい者）スポーツの大会（体験）を一緒にやったらどうか」などと、前向きな意見が出されました。

年に一度、各市のボランティアさんたちと出会える嬉しさを改めて感じ、また会うことを約束し本研修会を終えました。

## ボランティア学習塾「さぼてん」の活動



### 【12月】

12月16日、塾生と先生、ボランティアセンター運営委員等13名が集まり、年賀はがきの代筆を行いました。

はじめに代筆ボランティアの目的を知ってもらうために「なぜ依頼があるのか？」と問いかけ、依頼者の気持ちを想像してもらい、「手や目が不自由で書くことが難しいのでは」などの意見が出されました。

次に書き方の説明。文字は読みやすく、大きさバランスにも注意しなければなりません。メンバーは文字を間違わないように真剣な眼差しで心を込めて書いていました。

緊張感のある作業の後は、ケーキと飲み物でリラックスし「3年生を送る会」を行いました。入学試験や就職、部活の話題も出て盛り上がりました。

今までの活動をDVDにまとめた映像を楽しく見ながらお話タイム。映像の中の自分たちを見て「若かった」などの声も…。

最後に来年の活動の約束をし、活動を終わりました。



### 【1月】

1月27日、西児童センターで子どもたち15名と交流を行いました。塾生から、『バルーンアートで児童館の子どもたちと交流したい』との要望から、バルーンアート研究会の小林さん、相沢さん、佐々木さんに協力を得て開催。

子ども達にちゃんと教えられるように「犬」と「剣」の作り方を事前にレクチャー。初めて作る塾生もいたが、すぐに覚えて上手くできたと満足顔でした。

児童館の先生の「開会のあいさつ」の後、スタッフ全員が自己紹介を行い、そして本番。一つ一つ、丁寧に子どもたちの進み具合を確認しながら教え、子ども達は分らないところや難しいところは塾生やスタッフに聞きながら頑張って作っていました。

自分が作ったバルーンが完成すると、周りの友達と嬉しそうに見せ合っ。塾生たちは子どもたちの中に入り、空気



の入れ方やバルーンのねじり方など優しく教え、たまにバルーンが大きな音で割れると、子どもと一緒に驚いていました。

参加した子ども達はみんな「楽しかった」と、口を揃えて話し、塾生たちも風船から色々なものが出来るのを見てバルーンアートの魅力が判ったようで、「また一緒にやれたらいいな」と話していました。

## (2) 網走市ボランティアセンター

(設置主体：社会福祉法人 網走市社会福祉協議会)

### 1. 活動概況

住 所	網走市南2条西3丁目 網走市市民活動センター内
電話番号	0152-61-4822
FAX番号	0152-61-4855
E-mail	a432472@herb.ocn.ne.jp
設置時期	昭和51年8月1日 (「網走市愛情銀行」としては、昭和40年11月8日に設置している。)
職員体制	2名(専任1名、兼任1名)

### 2. 具体的な活動内容

- ・ ボランティア登録斡旋事業

当センターが仲介役となり、活動をしたい人と活動をお願いしたい人や団体をコーディネートする仕組み。

[平成28年度実績]

ボランティア登録者：1,299名、活動斡旋回数：342回、活動延べ人数887名

- ・ ボランティア研修「つながろう！講座」の開催

ボランティア活動の推進を目的とした研修を年1回開催している。内容は、「コミュニケーション講座」、「地域の助け合い講座」、「ファシリテーション講座」等。

- ・ ヤングボランティア育成事業の実施

市内高校生を対象に、ボランティア活動の推進を目的とした研修を年2回開催している。「紋別市ボラセンJr.」との交流も行っている。

- ・ ボランティア相談業務

ボランティア・市民活動に関わる各種相談に応じている。

[平成28年度実績]

相談件数：522件

- ・ 網走市市民活動センター管理運営

網走市より、市民活動の推進を目的とした公共施設の管理運営を受託しており、市民活動支援セミナーを開催したり、貸出事業(ミーティング室や備品等)を実施している。

### 3. ボランティア実践団体との連携の実際、今後どのように連携していきたいか

現在、若い世代のボランティア育成を目的とした事業において、市内高等学校ボランティア部との連携を行っている。ボランティアに関係する連絡事項があれば情報交換しており、10年以上継続的に連携できている。また、当センターの職員が定期的にボランティア部を訪問し、学生と接点を持っており、その結果学生が当センターに立ち寄ってくれることもある。当センターのボランティア登録者として活動している卒業生も多く、若い世代の担い手育成の観点で、成果が出ているといえる。

また、当センターのボランティア登録斡旋事業において、市内のNPO法人や市民団体、企業などが団体登録をしていただくことで、定期的に情報提供することができている。

今後も地域からの要望を待つのではなく、常にアウトリーチをかけて、幅広くさまざまな団体と連携していきたい。

### 4. 今後の課題や展望

人口減少や少子高齢化に伴い、地域での助け合い活動の縮小が予測される中、ボランティア実践団体における活動者の担い手不足が大きな課題となっている。今後も若い世代のボランティア育成を継続していくとともに、現役世代へのアプローチも必要と感じている。現役世代の継続的なボランティア活動は難しいかもしれないが、少しでもボランティア活動との接点を持つことで、退職後の地域活動への参加向上につながると考えている。そのためには、企業に対し、ボランティア休暇制度の提案やボランティアガイドブック等の配布を行うことも重要である。また、生活支援体制整備事業推進の観点から、健康な高齢者がボランティア活動に参加することも介護予防に効果的であるため、若い世代から勤労者、高齢者へのボランティア活動のアプローチが必要である。

さらに、当センターの出前講座事業において、市内小中学校や町内会、ボランティア実践団体からの依頼を受け、福祉をテーマとした学習の機会を提供している。福祉教育は社会福祉協議会の専門分野であるため、今後も積極的に実施することで福祉に対する理解を深め、地域における活動者の担い手不足解消につなげていきたい。

5. 活動の様子

1) (2005年1月28日第3種郵便物認可) 第3935号(日刊) **網走タイムズ** 2017年(平成29年)12月17日(日)

### 親子でパーティー楽しんで 高校生ボラが手作り交流会

市内の高校生ボランティアによるクリスマスパーティー「高校生が考える！作る！披露する！クリスマス交流会」が16日、市総合福祉センターで開かれ、集まった乳幼児とその保護者らが、ゲームや交流会を楽しんだ。

若い世代のボランティア育成を目指す市社協の「ヤングボランティア育成事業」の一環、当初は高校生が交流会を手伝うかたちで行われていたが、「次の世代に何が出来るかをヤングボランティアが考え、行動に移せば」と、現在は高校生ボランティアが内容を企画する手作り交流会になっている。

参加した南ヶ丘高の全日制と定時制、桂陽高のボランティアは約30人。乳幼児とその保護者は約90人が集まった。昨年は約1週間で定員になったが、今年

は募集開始から3日という人気ぶり。リズム体操で体を動かした子どもたちは、輪投げやボウリングなど、生徒たちが考えたさまざまなゲームを楽しんだ。

風船から吹き出す空気を推力に、糸に通したストローを飛ばす遊びでは、周りの高校生が怖がるのをよそに、子どもたちがピストンで一生懸命に風船をふくらませて割れそうになる場面も、みな高校生と楽しいひとときを過ごしていた。

子どもたちがゲームを楽しんでいる間、保護者には日ごろの子育ての疲れをいやしてもらおうと、高校生がハンドマッサージ。思わぬサービスに保護者も顔がほころんでいた。

イベント後半の交流会では、子どもたちに「アンパンマン」の顔をかたどったホットケーキが振る舞われたほか、サンタクロースが現れて高校生手作りのプレゼントが配られるなど、子どもたちには良い思い出づくりになったようだ

(伊藤)



高校生手作りの遊びを楽しむ子ども

↑写真1



↑写真2

写真1：地元新聞に掲載された「ヤングボランティア育成事業」に関する記事。

写真2：「ヤングボランティア育成事業」に参加した子どもたちの集合写真。

資料：「ボランティア登録斡旋」についての周知用チラシより抜粋。(P23参照)

皆さんのボランティア活動を応援します！

ボランティア  
募集中



# ボランティア 登録

## しませんか？

特別な資格や技術は不要です。

登録  
すると？

- 情報誌「夢ポケット」の送付
- ボランティア講座のご案内
- ボランティア活動のご紹介
- ボランティア活動保険の加入



みんなで作るう  
助け合いのまち「網走」



趣味や特技を  
活かして



自分に合った  
活動を



子供から  
シニアまで



働いている人も  
ボランティア



# ボランティア 依頼

## ありませんか？

お困りごとをご相談ください。

- 施設でボランティアをお願いしたい
  - 福祉行事のお手伝いをお願いしたい
  - 地域の事でお手伝いをお願いしたい
- \*お問い合わせはボランティアを依頼したい施設等にお願いします。

ご相談・お問い合わせ先

社会福祉法人  
**網走市社会福祉協議会** 地域福祉課 地域福祉係  
 電話 (0152) 61-4822 / FAX (0152) 61-4855



### (3) 赤平市ボランティアセンター

(設置主体：社会福祉法人 赤平市社会福祉協議会)

#### 1. 活動概況

住 所	赤平市東大町3丁目4番地
電話番号	0125-32-5566
E-mail	v.akabira@akabira-shakyo.hs.plala.or.jp akashakyo@akabira-shakyo.hs.plala.or.jp
U R L	<a href="http://www.akabira-shakyo.hs.plala.or.jp/">http://www.akabira-shakyo.hs.plala.or.jp/</a>
設置時期	「ボランティアのまちづくり事業」の指定を受け、ボランティアコーディネーター及びボランティアアシスタントを配置し、平成9年7月に設置した。
職員体制	4名（センター長1名、ボランティアコーディネーター1名、ボランティアアシスタント2名）

#### 2. 具体的な活動内容

当センター登録団体の主な活動内容について、以下に記載する。

- ・ 託児ボランティア  
市民検診やフッ素塗布の際に託児を行っている。
- ・ イベントボランティア  
施設の夏祭りやクリスマス会の際に利用者の介助を行ったり、運動会の際に進行の手伝いをしている。
- ・ ふきのとうボランティア  
各地域を巡回して開催している地域交流会「ふきのとう」（4月～12月の第3木曜日）において、昼食作りを行っている。
- ・ タオルたたみボランティア  
あかびら市立病院で、清拭用タオルたたみを行っている。平日3～4人体制で活動している。
- ・ 院内案内ボランティア  
市立病院で、平日の午前9時30分から11時30分まで院内案内を行っている。
- ・ 食堂ボランティア  
平成22年7月より、市立病院内食堂「ぼらん亭」を運営している。
- ・ キャットミント  
チームワーク第一の大人の部活バンドで、イベントや市民コンサートで演奏している。
- ・ 写真部  
メンバーが撮影した市内各所の写真を市立病院等に掲示し、患者らに癒しを与えている。

### 3. ボランティア実践団体との連携の実際、今後どのように連携していきたいか

「2. 具体的な活動内容」に記載したボランティア実践団体や平成28年度に発足した地区ごとのエリアサポーターと連携を図り、事業を展開している。

市内にはNPO団体が3団体ある。人口減少や高齢化などの課題がある中で、今後イベント等で連携を図っていきたい。

### 4. 今後の課題や展望

近年、ボランティア活動者の高齢化や会員の減少、後継者育成の遅れといった課題が深刻化してきており、活動の継続が危ぶまれているボランティア実践団体が数多く存在する。

その反面、多様化・複雑化する地域課題の解決策や介護予防・日常生活支援総合事業による生活支援の担い手として、ボランティアの活躍がますます期待されている。

そうした背景の中、赤平市社会福祉協議会では、平成27年7月に生活支援コーディネーターを配置し（赤平市より受託）、ボランティアコーディネーターと兼務のもと、地域の人々の支え合い体制を整えている。また、高齢化率が高くても、健康でお互いに支え合い、孤立する人がいない地域を目指して活動するエリアサポーターを養成している。現在約100名が地域で活躍し、健康寿命を延ばすための活動や有償の生活支援サービスに取り組んでいる。

### 5. 活動の様子



↑写真1



↑写真2



↑写真3

写真1：地域交流会「ふきのとう」で食事をする活動者と参加者の様子。

写真2：趣味を活かした写真部の活動の様子。

写真3：エリアサポーターと中学生が、高齢者宅を訪問する様子。

中学校の福祉・共生学習の一環として、エリアサポーターが行う高齢者へのアンケート調査に同行した。

## 参考資料

～「平成29年度市町村ボランティアセンター統計資料」

(平成30年2月発行) より～

この統計資料は、毎年度実施している「市町村社会福祉協議会基本調査」の項目から、ボランティアに関する部分を抜粋しとりまとめています。

- 調査の名称 平成29年度市町村社会福祉協議会基本調査
- 調査の対象と回答状況 道内179市町村社会福祉協議会 (回答率100%)
- 調査時点 平成29年4月1日現在

## 1 ボランティアセンターの体制

### ① ボランティアセンターの設置状況

ボランティアセンターを「設置している社協」は153か所（85.5%）となっており、前年より増加している。また、「設置なし、機能あり」は13か所となっており、「設置している社協」と合わせ、近年では横ばい傾向にある。

§ ボランティアセンター設置状況 § (単位：か所)

区分	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
設置している	152	84.9%	149	83.2%	153	85.5%
設置なし、機能あり	17	9.5%	18	10.1%	13	7.3%
設置なし	10	5.6%	12	6.7%	13	7.3%

### ② 運営委員会の設置状況

ボランティアセンター運営委員会を設置している社協数は88か所（49.2%）であり、近年は横ばい傾向にある。

ボランティアセンターの運営にあたっては、運営委員会の機能が活用されることが望ましいが、ボランティアセンター数に比して運営委員会の設置は約半数となっているのが現状である。

§ ボランティアセンター運営委員会設置状況 § (単位：か所)

区分	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
設置している	91	50.8%	90	50.3%	88	49.2%
設置なし	88	49.2%	89	49.7%	91	50.8%

## 2 ボランティアの登録状況

前年度より「個人ボランティア」の人数が増加しているものの、「団体ボランティア」が減り、トータルのボランティア数が減少している。

§ ボランティア登録状況 § (単位：人、か所)

区分	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
個人ボランティア	13,532	12,342	14,357
団体ボランティア	147,604	162,536	146,044
人数合計	161,136	174,878	160,401
団体数	3,909	3,914	3,850

### 3 ボランティアセンター職員体制、コーディネーター及び協力員の設置状況

ボランティアセンターの職員体制は、「所長」「所長を除く担当職員」の兼務の割合が全体の 95.8% となっており、ほとんどのセンターで職員の兼任による運営がなされていることがわかる。

コーディネーターの人数は、近年横ばい傾向となっているが、今年度は常勤・非常勤ともに前年度より増加しており、ボランティアセンターの重要性が増していることが推測される。

協力員の配置状況は、横ばい傾向にある。元々市町村ともボランティアセンター事業に関わる地域の担い手が少ないため、ボランティアセンター機能単独での人材確保の困難さが推測される。

#### § 職員体制（所長、担当職員） §

（単位：人）

		市（35 か所）			町村（144 か所）			計（179 か所）		
		H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
所長 （部長・課長）	専任	2	1	3	4	2	5	6	3	8
	兼任	15	14	14	83	79	79	98	93	93
	計	17	15	17	87	81	84	104	96	101
所長を除く 担当職員	専任	7	5	3	5	5	3	12	10	6
	兼任	28	31	36	189	193	194	217	224	230
	計	35	36	39	194	198	197	229	234	236

#### § コーディネーターの配置状況 §

（単位：人）

		市（35 か所）			町村（144 か所）			計（179 か所）		
		H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
常勤コーディネーター	専任	7	8	7	8	7	7	15	15	14
	兼任	21	22	19	46	43	51	67	65	70
	計	28	30	26	54	50	58	82	80	84
非常勤コーディネーター	専任	6	5	4	2	3	3	8	8	7
	兼任	3	3	5	3	4	5	6	7	10
	計	9	8	9	5	7	8	14	15	17
コーディネーター数計		37	38	35	59	57	66	96	95	101

#### § 協力員の配置状況 §

（単位：人）

		市（35 か所）			町村（144 か所）			計（179 か所）		
		H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
有給の協力員	専任	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	兼任	0	0	0	1	0	0	1	0	0
	計	0	0	0	1	0	0	1	0	0
無給の協力員	専任	10	10	10	8	8	7	18	18	17
	兼任	0	0	0	2	2	2	2	2	2
	計	10	10	10	10	10	9	20	20	19
コーディネーター数計		10	10	10	11	10	9	21	20	19

#### 4 ボランティアコーディネートの状況

「延べ年間相談件数」及び「延べ年間紹介（斡旋）件数」は前年度と比較すると増加している。

§ 道内全体の相談・紹介（斡旋）件数 § (単位：件)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
延べ年間相談件数	9,153	10,698	21,776
延べ年間紹介（斡旋）件数	17,892	19,647	21,881

§ 平成 29 年度市・町村社協相談件数内訳 § (単位：件)

	市	町村	計
相談件数	20,097	1,679	21,776
紹介（斡旋）件数	18,648	3,233	21,881

#### 5 ボランティアグループへの支援

ボランティアグループへの支援内容は、「情報提供」「活動費の助成」「場の無料提供」の順で多い傾向であり、例年と変化がない。特に取り組みやすい支援であることがわかる。

どの項目においても年度ごとに大きな差はなく、継続した支援を実施していることが窺えるが、「機材貸し出し」「活動機材の保管」については近年増加している。

§ ボランティアグループ支援状況 § (単位：か所)

	平成 27 年度			平成 28 年度			平成 29 年度		
	市	町村	計	市	町村	計	市	町村	計
情報提供	34	119	153	33	121	154	33	123	156
チラシ配架	19	34	53	19	33	52	16	35	51
活動費の助成	24	110	134	24	108	132	24	110	134
場の無料提供	27	74	101	27	78	105	27	79	106
活動機材の保管	18	36	54	16	42	58	17	47	64
機材貸し出し	28	66	94	28	73	101	28	74	102
団体事務局	7	41	48	8	43	51	9	38	47
団体会計	6	26	32	6	26	32	6	27	33

## 6 ボランティア協力校の状況

市町村社協におけるボランティア協力校独自指定実施か所数が、平成24年度から半数を下回り続けている。

その一方で、学校からの協力要請に対し、協力を行う福祉の学習では、昨年度とほぼ同様のか所数となっている。

福祉教育に関する講演会・懇談会等の開催は、市・町村社協ともに実施件数がほぼ横ばい傾向にある。

### § 市町村社協指定ボランティア協力校の状況 § (単位：か所)

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
市	18	51.4%	18	51.4%	17	48.6%
町村	69	47.9%	66	45.8%	69	47.9%
計	87	48.6%	84	46.9%	86	48.0%

※当該ボランティア協力校の指定は、本会で指定したものは含まない。

### § 学校からの協力要請に対し総合学習等で実施している支援内容 § (単位：か所)

	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
	市	町村	計	市	町村	計	市	町村	計
車イスの貸出	34	110	144	34	115	149	34	112	146
カリキュラム共同作成	18	26	44	18	25	43	16	24	40
見学先の紹介や調整	23	43	66	23	44	67	24	48	72
関係機関との連絡調整	28	75	103	28	75	103	30	78	108
社協職員による授業	30	65	95	31	68	99	33	68	101
その他	2	7	9	3	7	10	3	7	10

### § 福祉教育に関する研修会・懇談会等の開催 § (単位：か所)

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
市	14	40.0%	15	42.9%	17	48.6%
町村	21	14.6%	21	14.6%	22	15.3%
計	35	19.6%	36	20.1%	39	21.8%



## 7 ボランティアポイントの実施

ボランティアポイントを実施している市町村は今年度 39 か所（85.5%）と 1.5 倍に増加した。  
 委託先は半数以上が社協となっており、今後も社協が委託先となる地域が増えることが推測される。  
 ボランティアポイントの付与対象者は半数が 65 歳以上となっているが、「世代を問わない」地域も増加している。

### § ボランティアポイントの実施 § (単位：か所)

区分	平成 28 年度		平成 29 年度	
	件数	割合	件数	割合
市	6	17.1%	9	48.6%
町村	19	13.2%	28	15.3%
計	25	14.0%	39	21.8%

### § ボランティアポイントの委託先 § (単位：か所)

	平成 28 年度			平成 29 年度		
	市	町村	計	市	町村	計
社協	4	11	15	4	16	20
行政にて実施	2	7	9	5	9	14
その他	0	1	1	0	3	3
計	6	19	25	9	28	37

### § ボランティアポイントの付与対象者 § (単位：か所)

	平成 28 年度			平成 29 年度		
	市	町村	計	市	町村	計
65歳以上	6	8	14	9	9	18
世代を問わない	0	7	7	0	14	14
その他	0	4	4	0	5	5
計	6	19	25	9	28	37

## 8 災害ボランティア体制の状況

昨年度の台風被害を受け、平成 29 年 4 月より本会に北海道災害ボランティアセンターが設置された。今後さらに災害ボランティアについての重要性が強まることが推測される。

防災に対応するための体制整備やその必要性などを十分認識していることは間違いなく、今後、財政的な支援も視野に行政の理解促進、協力・連携体制の構築等をさらに進めていくことが課題である。

### § 市町村地域防災計画における社協の位置づけ（災害ボランティア） § (単位：か所)

区分	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
市	26	74.3%	27	77.1%	18	51.4%
町村	59	41.0%	59	41.0%	57	39.6%
計	85	47.5%	86	48.0%	75	41.9%

### § 社協における災害対策要綱（災害発生時の職員配置等に関する規定）の整備状況 §

(単位：か所)

区分	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
市	6	17.1%	6	17.1%	8	22.9%
町村	12	8.3%	14	9.7%	9	6.3%
計	18	10.0%	20	11.2%	20	9.5%

### § 災害ボランティアセンターの立ち上げに関する備品の整備状況 §

(単位：か所)

区分	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
市	7	20.0%	6	17.1%	9	25.7%
町村	20	13.9%	21	14.6%	7	4.9%
計	27	15.1%	27	15.1%	27	8.9%

### § 災害ボランティア活動マニュアルの策定 §

(単位：か所)

区分	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
市	10	28.6%	11	31.4%	13	37.1%
町村	8	5.6%	8	5.6%	11	7.6%
計	18	10.1%	19	10.6%	24	13.4%



---

## 平成29年度ボランティア活動事例集

---

発行 平成30年3月  
社会福祉法人 北海道社会福祉協議会／北海道ボランティア・市民活動センター  
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地 かでる2・7 2階  
北海道社会福祉協議会 地域福祉部地域福祉課内  
TEL：011-271-0683  
FAX：011-271-3956  
ブログ：<http://blog.canpan.info/d-vola/>